

平成 30 年度第 1 回総合教育会議での主な意見とまとめ

平成 30(2018)年 10 月 23 日

文書学事課

1 求人と求職のミスマッチ

- (1) 高校生は、暗示にかかりやすいので、本人の適性を見抜いて適切に進路をアドバイスできる先生が必要である。
- (2) 高校生の職業観の形成には、年配の偉い人の話よりも、年齢の近い先輩からの話が必要である。
- (3) 何十年か先をイメージさせ、その際どのように生きていくかを今から考えさせることが重要である。
- (4) 普通科の高校生は、様々な職業が視野に入っていないのではないか。
- (5) キャリア教育のやり方、深さが不足しているのではないか。インターンシップはより長い日数で複数回やるべきである。
- (6) インターンシップを含め、様々な実体験の場を増やし、自分が何に喜びを感じ社会が何を求めているかを体で感じる必要がある。
- (7) キャリアモデルは親などの身近な大人が大きな影響力を持つので、大人がきちんとした生き様を子どもたちに見せていくことが大切である。

2 3年以内の離職率

- (1) 最初に勤めた会社を辞めた人の駆け込み寺のような仕組みを設けて、そこに企業情報が行き渡るようにして、新たなマッチングが出来るが良い。就職する前に「ダメだったらジョブモールへ」という周知もあって良い。
- (2) 離職率が改善しないならば、新規のビジネスを生み出す視点からいろいろな仕組みをつくっていくことも必要である。
- (3) 終身雇用の時代は終わっている。年功序列という仕組みも崩れている中で、三年離職することが本当に問題なのか、議論する余地がある。
- (4) 離職を防ぐ方法の一つとして、子どもたちのコミュニケーション能力を高めていくべきである。

3 東京圏への人材流出

- (1) 東京圏から戻ってくるための方策として、郷土愛を育むことも重要。

次回は、インターンシップ制度の在り方や、進路指導の先生のスキルアップについてさらに議論を深めるとともに、普通科の高校の就職状況等に注目して協議していくこととなった。